

## ＜日本歯科衛生学会 9/15・16＞



9月15・16日に愛知県のウインク愛知にて、第14回日本歯科衛生士会学術大会が開催され、滋賀県からも大勢の会員が参加しました。ランチョンセミナーのチケットは配布30分前から長蛇の列で配布時間前に400名の定員に達するなど大変な盛況ぶりでした。

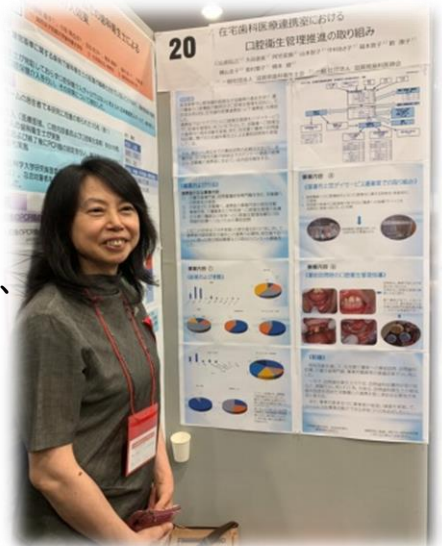
本会からは、平井由花さんが「地域包括口腔ケアシステムの構築を目指して一竜王町における個別訪問歯科指導事業について」と題して口演発表されました。

ポスター発表は、山田弘江さんが「在宅歯科医療連携室における口腔衛生管理推進への取り組み」、高田仁美さんが「某歯科医師会による歯科のない病院への歯科医療従事者派遣事業に参加した歯科衛生士の活動報告」と2題の発表がありました。高田さんは、ポスター発表賞候補演題に選ばれる素晴らしい内容とポスターでした。



ランチョンセミナーのお弁当は、愛知県歯科衛生士会が仕出屋さんと相談を重ね摂食嚥下機能を意識し工夫を凝らした内容で、名古屋名物「ういろう」も入っており歓迎の気持ちに感謝しながら頂きました。

次年度第15回学術大会開催地の大阪府歯科衛生士会からは、さすが大阪！と感じる笑いと勢いのある圧巻のパフォーマンスで次回案内がありました。来年の9月19・20日に大阪国際交流センターで開催されます。ぜひ参加して、全国の歯科衛生士と交流し、新たな知見を深めましょう。



ホームページから、研修会の申込みができるようになりました。

事務所開所日

火曜日・金曜日 9:00～12:00

電話：077-526-8010 FAX：077-526-8020

湖風カラー版、最新の情報は、ホームページをご覧ください♪

滋賀県歯科衛生士会 →<http://shiga.jdha.or.jp/>



## 〈第2回 生涯研修会 8/4〉

大津赤十字病院にて「その食形態は対象者の口に合っていますか？」をテーマに、愛知学院大学准教授の牧野日和先生をお迎えし、「フードスタディ」体験を通し、対象者への嚥下食の選択の際の質的な評価法についてご講演頂きました。

対象者の全身状態、嚥下状態は様々で、安全に食べられる食事の提供をする為には、厨房の頑張りとは、細かくする、つぶす、あんかけをするなどの手元調整が必要となります。

本講演では、①嚥下障害食を理解する為のメカニズム、②食事の形態、③自分の口を使って食事をチェックするフードスタディを体験し学びました。

口の専門家である歯科衛生士が、安全に生きるお手伝いをするためにも、臨床の現場で食事指導に活かしてくれることを願う研修会でした。



## 〈訪問歯科衛生士セミナー 7/7 8/4〉

超高齢化社会において、歯科衛生士も診療所のみならず在宅又施設へと通院困難な方への口腔健康管理を行うようになり、本会においても訪問歯科衛生士の養成を目的とした「訪問歯科衛生士セミナー」を7月7日、8月4日と2日間にわたり開催しました。



在宅療養に関する保険と制度、アセスメント、歯科衛生診断、計画の立案といった口腔衛生管理についてや嚥下の5期、間接訓練などを基礎から学びました。

また、実際に口腔ケアの相互実習を行うことで、参加者からはスポンジブラシやジェルの使い方を理解でき、体験することで相手の立場に寄り添ったケアを心がけるといった声が多く上がりました。

地域包括ケアシステムの構築が進む中、今後地域に出て多職種と連携し協働出来るように本会は今後も訪問歯科衛生士の育成を支援してまいります。

### お知らせ

10/27(日)障害者歯科研修会「障害者・小児の摂食嚥下への支援」：セントラルホテル野洲  
12/22(日)復職支援研修会「超音波スケーラー実習」：草津総合病院「あおばなホール」